

奈良市 手をつなぐ親の会だより	NO 367	平成31年2月8日(金)	
	発行 奈良市手をつなぐ親の会 会長 小西 英玄		
	所在地 〒631-0801 奈良市左京5-3-1 奈良市総合福祉センター内		
	Tel0742-71-0770	http://naraoyanokai.info/	

親の会の活動「0」から「1」

平成31年の初めての親の会だよりです。
本年もよろしく願いいたします。



皆さん、村木厚子さんをご存知ですね。厚生労働省勤務。郵便不正事件で逮捕。冤罪ののち厚生労働省事務次官。厚労省課長時代には奈良にも数回来ていただきました。

その村木さんの著書「日本型組織の病を変える」(角川文庫)のなかで興味ある言葉がありましたので紹介させていただきます。

第4章「公務員はこれからどう生きるか」の中に NPO・研究者・企業・行政の役割の違い

公務員と言う仕事で思い浮かぶ言葉に、次のようなものが有ります。ある会合で、誰かが言っていた言葉です。

「0」を「1」にするのはNPO・当事者団体の力。理論武装して「1」を「10」にするのは学者の力。ペイする範囲内で「10」を「50」にするのは企業力。そして、だれもが利用できるように「50」を「100」にするのが行政の力です。この「50」を「100」にするのが公務員の仕事というわけです。

国にも自治体にもまだ制度が無い時に「これが必要だ」と思ったら、何とかしようと持ち出しをしてでも新しい仕組みやサービスを作り出すのが NPO・当事者団体の力です。現場の強みです。役所のように、公平性や全体性を考えるより先に心と体が動いている。こうしたセンスって、本当に魅力的です。

そして「1」が生まれた時、ここでこんなことやっている人たちが居ます。これはこういう必要性に裏打ちされていて意義があります。だからここだけではなく全国にあったほうが良いですと理論づけをして「1」から「10」に広めるのが学者や研究者の力です。

理論が固まったら、それをさらに普遍化し、世の中に広めて「10」から「50」にするのが企業力。何故「50」までかというと、経営が成り立つことが前提である企業は、全ての人までを対象とすることができないから。そして、まさに「50」を「100」にするのが行政の力。つまり、公務員が汗をかく部分ではないかといわれました。

私たちは、この言葉を忘れていたかもしれません。でも、奈良市手をつなぐ親の会は今まで実践してきました。「リサイクル事業所」、「春咲きコンサート」など。

これからの世の中、住みにくくなります。障害をもつ我が子たちには益々生き辛い世の中になることでしょう。今一度「0」から「1」の活動、再誕しませんか。愛する我が子達のために。